

公募研究 A02 (課題番号: 09202207)

近世の長崎貿易関係商人名前の研究

研究代表者: 賀川隆行・財団法人三井文庫・研究員

1. 研究項目: A02 環東シナ海地域間交流史
2. 研究課題名: 近世の長崎貿易関係商人名前の研究 (課題番号: 09202207)
3. 研究期間: 平成9年度 (1997)
4. 交付研究費: 平成9年度 700千円
5. 研究組織 (氏名: 所属機関・部局・職)
(研究代表者) 賀川 隆行: 財団法人三井文庫・研究室・研究員
(研究分担者) 吉川 容 : 財団法人三井文庫・研究室・研究員

6. 研究目的

近世の長崎貿易と、長崎会所で落札された輸入品の国内流通の研究を進展させるためには、貿易商人名前一覧の研究が不可欠の作業となる。長崎貿易に関する文書の史料上の意味を確定するには、文書に表される商人が流通経路の上でどの位置にあるかが確定されていなくてはならないのであるが、それは貿易品の国内流通が幕府の強い規制をうけて固定されてきたからである。ところで長崎会所で輸入品の入札にあたる五力所本商人をはじめとして、長崎貿易に携わった商人には小規模の者が多かった上に投機的性格が強く、輸入品の価格変動があると経営は容易に倒壊したために、関係商人の史料があまり残されていないだけでなく、商人名前を掌握することも容易ではない。それに関して公表されたデ・タは存在していない。本研究では、研究の困難な状況を打破するために、前年度の研究に引き続き、三井家文書の中の長崎貿易関係史料を基本的デ・タとして、そのほか刊本や長崎、大坂等にて収集した文書を用いて、長崎貿易関係商人の名前一覧のデ・タベ・スを作成し、公表することを研究課題とする。五力所本商人や京都、大坂、堺の長崎問屋、唐薬種問屋や各種の仲買商人、それに本商人に協力する長崎市中の商人や運送業者等の名前を住所、年代等とともに入力するもので、そのような人名デ・タを用いることによって貿易関係文書一点一点の性格が明らかになるものと考えらる。

7. 研究成果の概要

前年度科学研究費の「近世長崎貿易に関する三井家文書の情報化」研究で、三井家文書に含まれる

長崎貿易に関する史料のデ - タベ - スを作成した。それを基本的デ - タとして、三井家文書の中より商人名前を入力した。そのデ - タには、名前のほかに業種、住所、年代、出典等が入力されている。さらに『大阪市史』、『堺市史』等の刊本の中で貿易関係商人名前に関するデ - タを同様に入力した。また慶応義塾大学所蔵永見家文書や関西大学東西学術研究所所蔵巻物問屋文書等をフィルムにて収集したが、その外にも以前に収集した長崎県立図書館、長崎市立博物館、大村市立博物館、少彦名神社、大阪商工会議所等の所蔵文書も加えて、貿易商人名前を抽出してデ - タに加えることができた。このデ - タベ - スの公開の方法については検討している。